

第5回 防災支援人材育成プログラム策定会議 議事録

日時：令和8年3月21日（土）10:00～12:00

場所：防災科学技術研究所 第1ユニット棟1階 第3会議室

出席：（策定会議委員 五十音順）井手よしひろ、笠島昇治、草間清那、桑野あゆみ、笹島俊秋、柴田美智子、田中香織、長屋和宏、堀内隆博、松崎貴志、森剛勇、山本美和（計12名）
（オブザーバー）久保英也、（事務局）李泰榮、今泉賢吾、王尾和寿、若泉政人

欠席：天野一男、吉田淳

オンライン参加：野上大介（途中退室）

【議題】

1. 第4回会議の振り返り
2. 防災支援人材育成プログラム（セッション5）の内容検討
3. 事務連絡

【配布資料】

1. 第4回防災支援人材育成プログラム策定会議振り返り（地域防災ファシリテーション「形」、セッション4概要：災害時の困ることと解決策を考える、カリキュラム、名簿）
2. 第4回防災支援人材育成プログラム策定会議議事録
3. セッション5：解決策の実践と改善のための平時の備えを学ぶ
4. セッション5：解決策の実践と改善のための防災活動を考える・ワークシート案

議題1 第4回会議の振り返り 省略

議題2 防災支援人材育成プログラム（セッション5）の内容検討は、事務局の李が配布資料を投影し説明を行った。

※これまでの意見交換会での議論をふまえ、プログラムは以下の概要をもとに内容を検討する。

【プログラムの概要】

- プログラム名「地域防災ファシリテーター育成プログラム」
- プログラム作成の目的：自主防災組織や自治会から防災活動をやりたいけれども、どこから手をつけてよいかわからないという相談を防災士会が受けた際、自主防災組織等に派遣する支援者（地域防災ファシリテーター）を育成すること
- プログラムの時間は、座学×2（各15分）、演習×1（40分）、事前及び事後評価（各5分）、演習への切り替え（10分）＝合計90分
- プログラムの説明が15～20分で終わられるように、説明資料は10ページ程度にする
- プログラムは一日で実施完了できるものにする ※複数日の実施は、内容を忘れる可能性があるため

配布資料について事務局が行った説明内容は以下の通りである

- ① セッション5 概要（ねらい、構成、学習目標、学習内容）
- ② セッション5 目次（5-1, 5-2, 5-3の項目）
- ③ セッション5・パート5-1「解決策の実践と改善のための平時の備えを学ぶ」
 - 5-1で学ぶこと：解決策の実践と改善のための平時の備えを学ぶ
 - 実践と改善1：解決策を実践するための考え方
 - 実践と改善2：解決策を実行するための取り組みとは
 - 実践と改善3：防災訓練等の種類について理解する
 - 実践と改善4：防災訓練等の内容について理解する
 - 実践と改善5：防災訓練等の流れについて理解する
 - 実践と改善6：災害時の対応と平時の備えおよび訓練（地震災害の例）
 - 実践と改善7：災害時の対応と平時の備えおよび訓練（風水害の例）
 - 実践と改善8：防災訓練等の実施後の評価と改善点の検討
 - 5-1で学んだこと：解決策の実践と改善のための平時の備えを学ぶ

説明をふまえた委員の意見、質問等および検討事項等は以下の通りである。

資料ページ	委員意見	検討事項等
全体（参加者のグループ分け）	<ul style="list-style-type: none"> ●（堀内委員）5-3の演習を行う際のグループ分けは、知識や経験の有無などをもとに、議論を深められるよう、いろんなレベルの参加者でグループ構成する必要があるのではないか <ul style="list-style-type: none"> ➤（田中委員）資料集にグループ分けのノウハウやファシリテーションについてなど、プログラム実施の配慮として入れてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後のプログラム実践において参考にする ●指導案の内容として検討する
全体（用語：解決策と実践）	<ul style="list-style-type: none"> ●（長屋委員）タイトル「解決策の実践と改善」の改善は、解決策の改善なのか、解決策の実践の改善なのかかわからない。セッション4「災害時の困ることと解決策を考える」で解決策という言葉を使っていることが原因ではないか。言葉の定義をしっかりと理解が進まないと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご指摘をふまえ、用語について検討し、再整理する
全体（用語：実践と実行）	<ul style="list-style-type: none"> ●（井手委員）6ページタイトル「解決策を実行するための取り組みとは」とあるが違和感がある。行政の視点では課題に対して実行するということだと思うが、ボランティアやファシリテーターなどは、マニュアルをもとに行い、改善することも含むだろうから実践でよいと思う <ul style="list-style-type: none"> ➤（長屋委員）実践と実行については、一般論の理解と比べた違いな 	<ul style="list-style-type: none"> ●用語について検討し、再整理する ●実行の中にはプロセスが入っていない。実践には入っている。そのプロセスを理

資料ページ	委員意見	検討事項等
	ど、検討した方がよい	解してもらおうセッションになる。用語については、検討し、再整理する
学習内容 (3、4、 13ページ、)	● (草間委員) 3ページ「地域コミュニティが…理解する」と、「地域コミュニティが…学ぶ」と、重複しているので「理解して学ぶ」とした方がよいのではないか	● 理解することと、事例などで学ぶと分けている。ご指摘をもとに学習内容をどこまで書くか検討する
実践と改善 1	● (堀内委員) グレーの災害と被害はセッション3の内容。真ん中の赤枠の中の「地域の多様な団体…」はセッション2。補足で「セッション3のワークシートを参照」などガイドがあると、これまでの議論を振り返ることができて分かりやすいと思う	● 説明資料に追記する
実践と改善 2	<ul style="list-style-type: none"> ● (草間委員) 取り組みがグレーの雲で6つあるが、「解決策の実践と改善」に、「防災訓練等の種類とは?」、「防災訓練等の内容は?」、「平時の備えと訓練の関係は?」は含まれるのではないか ● (草間委員) それぞれの取り組みに、参照するページなど入れると理解が進むと思う ● (長屋委員) 取り組みの「平時の備えと訓練の関係は?」の安否確認は、安否確認をするということになるので、安否確認の確立の方がよいのではないか ● (井手委員) DIG、HUGは日本語での表記も必要ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ● ご指摘に沿って関係が分かるように見直す ● ご指摘をふまえてインデックスを追記する ● 安否確認訓練に修正する ● 実践と改善4の表記にならって、災害図上訓練 (DIG)、避難所運営ゲーム (HUG) とする
実践と改善 4	<ul style="list-style-type: none"> ● (草間委員) 吹き出しや見出しがたくさんあって見にくい <ul style="list-style-type: none"> ➢ (田中委員) 背景の色をエリアごとに分けるとよいのではないか 	● ご指摘に沿って修正する
実践と改善 5、8	● (草間委員) 実践と改善の5と8の関係について、5の右下に発見→検証→改善とあるが、8では検証がない	● 8の中の「集約結果の分析と振り返り」の分析ということばがあいまいなので修正する。5の検証は取り組み全体についてのことなので、「改善点を 発見→検証→改善」という文言も適切ではないので修正する

資料ページ	委員意見	検討事項等
実践と改善 6、7	<ul style="list-style-type: none"> ● (井手委員) 8のテーマ「給食・給水」の給食は、避難所で使ったことがない <ul style="list-style-type: none"> ➢ (笠島員委員) 元自衛官ですが、避難所で被災者にご飯を配るのは、配食という。炊き出しは行為を言っている ➢ (長屋委員) 厚生労働省のホームページでは食事の提供、食料提供という言葉を使っている ● (井手委員) 言葉としてよく議論になるのが、要配慮者と要支援者の言葉の使い分け。要配慮者という広い意味の言葉がある一方、個別避難計画では要支援者という言葉を使っている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食・給水は、災害対策基本法や地域防災計画の表記にそって記載した。配食がしっくりくるようなので修正する ● 広い意味での要配慮者(高齢者、障害者、乳幼児等の防災施策において特に配慮を要する方)が表現として柔らかく、対象も広いため使いたいと考えている。プログラム全体を見直し、要配慮者として統一できないか検討する

つづいてパーツ5-2「地域の理解と協力が広げられる平時の備えを学ぶ」について、事務局が行った説明内容は以下の通りである

④ セッション5・パーツ5-2「地域の理解と協力が広げられる平時の備えを学ぶ」

- 5-2で学ぶこと：地域の理解と協力が広げられる平時の備えを学ぶ
- 理解と協力1：防災活動はこれでいい？
- 理解と協力2：関心を広げるための防災活動とは
- 理解と協力3：地域での効果的な防災活動の実践方法
- 理解と協力4：地域行事やイベントと一緒に実践する防災活動
- 理解と協力5：楽しみながら実践する防災活動
- 理解と協力6：楽しく学べる防災教材
- 理解と協力7：防災キャンプの事例
- 理解と協力8：地域と学校の連携したこどもの避難体制の事例
- 理解と協力9：実践に活用できる情報・ツール（ICT）
- 理解と協力10：地域の理解と協力により防災活動を広げる
- 5-2で学んだこと：地域の理解と協力が広げられる平時の備えを学ぶ

説明をふまえた委員の意見、質問等および検討事項等は以下の通りである。

資料ページ	委員意見	検討事項等
全体（用語：備え、取り組み、実行など）	<ul style="list-style-type: none"> ● (長屋委員) 備え、取り組み、実行という言葉の使い方が統一されていないと思う。実践に対して、備え・取り組み・実行はほぼ同じの意味だと思うが、使い方によって異なるので、そろえた方がよい 	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラム全体で、実践・実行・備え・取り組み・解決策・対応・活動・訓練などの定義を整理する

資料ページ	委員意見	検討事項等
全体	<ul style="list-style-type: none"> ●（堀内委員）東京都の人口の約6割がマンションに住み、日本の全体では大体1割がマンションに住んでいるということで、プログラムでマンションをどう議論するかも考える必要があるのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ●（若泉）東京都はマンションの在宅避難を推奨しているなどしているが、マンションについてどうするか検討する
理解と協力 1	<ul style="list-style-type: none"> ●（長屋委員）子供に関わるイベントが多いが、子供向けイベントが目的なのか、子供向けイベントを通して目的を設定するのが不明確なので、その違いを明確にしないとイベント企画がうまくまとまらないと思う ●（笠島委員）グレーの吹き出し2つ「マンネリ化して疲れる」、「協力者がほしい」は地域の問題点なので、こういう方法もあるという改善点が示してあるとよいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ●子供中心のイベントを通して地域の防災力向上を図りたいので、ご指摘をふまえて表現等を見直す ●ご指摘をふまえて、吹き出しの答えを追記する
理解と協力 1、2	<ul style="list-style-type: none"> ●（草間委員）1の赤枠「一般的な防災活動」と、2の左上のグレーの雲「一般的な防災活動の課題は？」は1の赤枠のことであれば、1、2のページを入れ替えた方がよいのではないか ●（草間委員）グレーの雲の企画について、参照する資料集のページなど記載するとよいのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ●ページ構成を見直す ●ご指摘をふまえてインデックスを追記する
理解と協力 3	<ul style="list-style-type: none"> ●（堀内委員）子供が少なく高齢者が多い地域もある。高齢者は外に出にくいので、玄関のところに「私は大丈夫です」と表示して安否確認するなど、高齢者が多い地域にも参考になるアイデアがあるとよいと思う。また、支援してくれる人や教材はどこに相談すればよいかのガイドのようなものがあると助かる 	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習系の地域の取り組みなどを調べて企画例を検討する。教材等に関する情報は入れる

資料ページ	委員意見	検討事項等
<p>理解と協力 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● (山本委員) 子供がいない人や子育てが終わった人たちをどう巻き込むかというのが地域にとって大きいと思う。楽しいだけでは、子供向けのイベントに関係しない人たちへの意識づけとしては難しい。例えば地域の事業所にはたらきかけて、「災害時には共に対応することになるから」ということで協力を要請するなどのアイデアが必要だと思う ➢ (山本委員) 今までではそれでよかったが、学校の事情も変わってきている。学校自身が防災訓練などもやっている。学校は現状として業務が多くパンクしている。働き方改革による教師の負担軽減もある ➢ (山本委員) PTA がなくなっているところもある。主体について、学校なのか、コミュニティスクールなのかなど具体的に書かないと、学校に行って相談すればよいという理解を参加者に与えてしまうのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ● 40～50 代の人たちは社会経験もあり、災害時は指示に従って動くことができると思う。そうした人たちは「地域の資源」と考えているので、改めてイベント企画することは考えていない。そうした前提で、防災活動の継続性を保つというプログラムの趣旨により、学校と連携することを前面に出したいと考えている ➢ 学校に依頼して学校でやってもらうのではなく、場として活用することを考えている。あくまで主体は地域である。自主防災組織だけではなく、PTA などを巻き込んでコミュニティスクールの一環として行うなども考えられる ➢ ご指摘をふまえて書き方を見直す。地域が主体となって学校と地域の課題や対策を共に考える、ICT ツールで地域の問題を考えるなど、学校と地域の連携について具体的に説明を 1 枚追加する
	<ul style="list-style-type: none"> ● (柴田委員) 高齢者は困りごとが多い。例えばモバイルバッテリーと火災の関係などを防災講演で説明している。そうした日常の困りごとを防災と結びつける方法もある。ほかに社会福祉協議会や民生委員の方など、役立つツールとなる団体や人がある ● (田中委員) 防災士が核となり、既存の地域イベント等に防災の視点を取り入れながら活動を広げていく形で取り組むことも方向性としてあるのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員の皆さんがやっている活動など、イベントの方法論の参考になる事例を情報提供していただきたい ● 地域課題について、如何にさまざまな地域の方から意見を得て課題を整理するか、解決策についても、さまざまな地域の方からアイデアや力(社会資源)を集めて検討するかが重要。地域活動の団体などに所属していないにも声を掛けられる方法や事例を検討して追加する

資料ページ	委員意見	検討事項等
理解と協力 6	<ul style="list-style-type: none"> ●（桑野委員）教材の URL があるが、QR コードにしてもよいのではないか ●（長屋委員）5－1 で HUG が出てきたのに掲載されていない。「このつぎなにおきるかな」は、掲載場所は親子・小学生向けになる ●（井手委員）有償のゲームが記載されているが、一般公開することを考えると有償のものは外した方がよいのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご指摘をふまえて QR コードも記載する。デジタルコンテンツとして配布される場合は URL の方がよいので両方記載する ●ご指摘をふまえて HUG を記載し、「このつぎなにおきるかな」の記載場所を修正する ●権利の問題なども含め見直す
理解と協力 8	<ul style="list-style-type: none"> ●（桑野委員）健常者で車いすや杖を使ったことがない人が多いと思うので、車いすや杖などを使って支援について理解を深めることもよいのではないか <ul style="list-style-type: none"> ➢（長屋委員）自治体によっては、防災学習館のようなものがある。東京だと「しながわ防災体験館」というのが、車いすの体験などできる 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご指摘のプログラムや方法論をまとめたものがあれば、それに「+防災」という形にできる。参考にする

つづいてパーツ 5－3 「演習」について、事務局が行った説明内容は以下の通りである

⑤ セッション 5・パーツ 5－3 「演習」

- 演習 1：演習の目的
- 演習 2：演習の手順
- ワークシートの記入例

説明をふまえた委員の意見、質問等および検討事項等は以下の通りである。

資料ページ	委員意見	検討事項等
全体	<ul style="list-style-type: none"> ●（草間委員）演習の時間配分（議論、ワークシート記入など）が示されているとよいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ●時間配分を示す。演習が 40 分なので、冒頭の説明の 5 分で「一人で考える：20 分」、「隣同士で話し合う：10 分」、残りの 5 分は発表など考えている
演習 2	<ul style="list-style-type: none"> ●（長屋委員）通常の防災訓練を記入する B と、その下の防災イベントを記入する D の関係が不明なので、B を書いて、その内容を込めて D に書く人も出てくるのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご指摘をふまえてワークシートを修正する

資料ページ	委員意見	検討事項等
演習 2	<ul style="list-style-type: none"> ● (長屋委員) ワークシートの記入順が B → C → D → E と書かれているが、まず D でキャンプをやりたいと記入し、理由付けとして防災を考えるという書き方もよいと思う。すでにあるイベントに防災のエッセンスを加えるということもできるのではないか ● (田中委員) 今あるイベントをレベルアップする視点がよいのではないか ● (井手委員) 毎年、地域の総会で記念品を出すのがあった。毎年行う地域の行事に防災を絡めることもよいのではないか ● (山本委員) 自治会も PTA もないところが増えている。そうしたところでどうやって活動を促すかは大きな課題。防災士の人たちが連携し、核となって取り組んでいくことも必要ではないかと思う <ul style="list-style-type: none"> ➢ (柴田委員) 地域の人や事業者をツールとして使う方法もある。例えば看護師が仲間と協力して施設運営することや、防災と関連付けた告知をすることで自動車販売事業者の協力を得るなども事例としてある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 18 ページ(理解と協力 3) の考え方と整合するように見直す ● 防災の活動というと「しんどいこと」をやると考えるのは、継続性などからも推奨できないと考える。ご指摘をふまえて表を修正する <ul style="list-style-type: none"> ➢ (上田) 毎年やっている行事や訓練を書き出して整理することもよいのではないか ➢ (李) 防災を付け加えられるものを選んで考えるということによりよいと思う ● 5-2 の理解と協力 3 の意見に支援者になる人への声掛けもあったが、活動の仲間をどうやって増やすのかという情報も加えたい
記入例	<ul style="list-style-type: none"> ● (堀内委員) これまでのセッションで行った議論をもとに、セッション 5 でこうした防災活動に取り組むことにしたというまとめ方にしないと、これまでの議論との関係や意味が分からなくなると思う ● (井手委員) ワークシートの上の方にあるセッション 4 のふりかえりに、平時の備えとして「自治会などで名簿整備と更新」とあるが、「避難行動要支援者名簿」は、自治体で作るもので自治会は作れない。プライバシーの問題などもあるので、ハードルを下げた取り組みの方がよいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ● 次のセッション 6 で「実践知の共有」を行うが、ご指摘はその内容になる。まとめ方について検討する ● ご指摘をふまえて修正する

資料ページ	委員意見	検討事項等
記入例	<ul style="list-style-type: none"> ➤ (柴田委員) 民生委員は自分たちで情報を集めて要配慮者の名簿を作っている。本人の意思確認をして、出せないという人もいるが、公表してもよいという人は同意のもとで名簿として集約している ➤ (堀内委員) 事例はプライバシーの問題に抵触する危険性もあるので、公開されている日本防災士会などの活動事例などにした方がよいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ● 貴重な事例であり、ほかに工夫しながら取り組んでいる事例について情報提供してほしい ● 委員の活動で公表してもよい事例など紹介していただきたい
	<ul style="list-style-type: none"> ● (笠島委員) 「目指す効果」が期待される効果ならば、記入例は断定的ではない語尾になるのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「〇〇したい」などに修正する

以上